

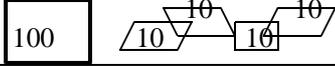
4. 単元の評価規準【A「数と計算」】

<資料1-(1)>

	ア 算数への関心・意欲・態度	イ 数学的な考え方	ウ 数量や図形についての表現・処理	エ 数量や図形についての知識・理解
内容ごとのまとの評価規準	数と計算に親しみをもち、それらについて様々な経験をもととするとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	実際にものの大きさや順番を調べたり、大きさなどを図や式に表したりするなどの算数的活動を通して十進位取り記数法による数の表し方や計算の仕方を工夫したり考えたりする	数を用いる能力を伸ばすとともに、整数の加法、減法、乗法の計算が確実にでき、それらを用いることができる。	数についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の加法及び減法の計算の仕方、乗法の計算の意味について理解している。
単元の評価規準	身の回りのものを10や100のまとまりにして数えようとしたり、数えたものを数字を使って書いたりよんだりとしようとする。 数を相対的な大きさからとらえようとする。	具体的なものの個数を実際に数える活動を通して、十進位取り記数法のしくみを考える。 数を相対的な大きさからとらえるなど数を多様にとらえる。	3位数までの数について、数えたり書き表したりすることができる。 十、百、千を単位として数をとらえることができる。	3位数までの数のよみ方、表し方、大小、順序などについて理解している。 数を相対的な大きさからとらえることを通して数についての豊かな感覚をもっている。
学習活動体のお評価規準	百何十何の数を進んで数えようとする。 十進位取り記数法のよさを数の表し方に用いようとする。 既習事項を活用し、活動に取り組もうとしている。	100までの数と同様に十の束を作り、さらに百の束を作っていけばよいという考えで、数えていくことができる。 10を単位として数をとらえることができる。	百何十何という数を表したり、読んだりできる。 1000までの数の構成が分かり、数えたり書いたりすることができる。	空位のある3位数の表し方が分かる。 百を10個あつめた数を「千」といい、1000とかくことを理解している。 1000までの数の数直線上への表し方や大小の比べ方がわかる。

5. 指導と評価の計画(全10時間)

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	十分満足できると判断される状況と努力を要する状況の児童への手立て
本時	・100をこえる数(3位数)の構成を理解し、100の束をつくって、数えることができる。	(問)魚はなんびきいるでしょう。 ばっと見てわかるようにしよう。 こをはっきりさせてかぞえよう。 10が12こ、1が6つ ・100が1つ、10が2つ、1が6つで126 100より大きな数は、100のまとまり、10のまとまり、1のばらと分けて数えると数えやすい (練)数え棒は何本あるでしょう。	【関】百何十何の数を進んで数えようとする。 【考】100までの数と同様に十の束を作り、さらに百の束を作っていけばよいという考えで、数えていくことができる。	: 10の束をつぎつぎにつくって困んでいく。 : 数えたことが分かるように印をつけさせる。 : 10のまとまりが10個あつまったものをさらに100のまとまりとして束ねる。 : 100までの学習を想起させ、10のまとまりを作ればよいことに気づかせる。
2	・100をこえる数(3位数)の構成を理解し、書いたりすることができる。	100が1こ、10が2こ、1が6このかずを数字でかこう。 ・10が10個で百だから、新しい位の部屋をつくって、126とかげばよい。 100と20と6をあつめたかずを126と書き、百二十六とよむ。	【表】百何十何という数を表したり、読んだりできる。	: 数字の位置で数の大きさを表すことを理解している。 : 10026などの間違いは、位の部屋をかいて100というのは、百の位に1とかくだけでよいことに気づかせる。
3	・数の構成を理解し、空位のある数を表したり読むことができる。	(問)おりがみのかずを数字で書きましょう。 1つもまとまりがないときのあらわしかたをかんがえよう。 ・10のまとまりがないから	【知】空位のある3位数の表し方が分かる。	: 3位数で10や1がないときは、まとまりのない位を0で表せばよいことに気づいている。

		<p>105とかげばよい。</p> <p>まとまりのない位を表すには、0をかけばよい。 (練) おりがみはなんまいあるでしょう。</p> 		<p>: 位の部屋をかかせることによって、どの位に0をかけばよいかを考えさせる。</p>
4	<p>・数の構成を理解し、空位のある数を表したり読むことができる。</p>	<p>(問) おりがみのかずを数字で書きましよう。</p> <p>なんまいあるのか、しょうこをはっきりさせてかぞえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100のかたまりが2つできたよ。</li> <li>・100が2つで200になる。</li> <li>・200と30と7で237だ。</li> </ul> <p>数に表すには、まとまりの数を位にあらわしていけばよい。 (練) 100を8つ、10を6つ、1を2つあわせた数はいくつでしょう。</p>	<p>【表】1000までの数の構成が分かり、数えたり書いたりすることができる。百何十何という数を表したり、読んだりできる。</p>	<p>: 位の部屋を想起しながら、各位の数の意味を理解して、表記している。</p> <p>: 図を用いて、100がいくつ、10がいくつ、1がいくつということをはっきりさせ、位の部屋をかかせ数字をあてはめさせる。</p>
5	<p>・10のいくつ分を何百何十というようにとらえることができる。</p>	<p>(問) 10を13こあつめたかずはいくつでしょう。</p> <p>10のまとまりがあつまった数のあらわしかたを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10が10こで100、10が3こで30だから100と30で130</li> </ul> <p>10のまとまりをあつめたかずは10といくつにわけて考えればよい (練) 10を48こあつめたかずはいくつでしょう。</p>	<p>【考】10を単位として数をとらえることができる。</p>	<p>: 10が10こで100であることから、13個を10個と3個に分けて考えている。</p> <p>: 図を用いて、10が10こで100ということに気づかせ、100のまとまりをつくって100と残りいくつかを考えさせる。</p>
6	<p>・何百何十を10のいくつ分というようにとらえることができる。</p>	<p>(問) 250は10をいくつあつめたかずでしょう。</p> <p>何百何十は、10をいくつあつめたかずかその表し方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・200は10が20こ、50は10が5こだから25こ</li> </ul> <p>10がいくつあつまったかずか表すには、何百と何十に分けて考えればよい。 (練) 540は10をいくつあつめたかずでしょう。</p>	<p>【考】10を単位として数をとらえることができる。</p>	<p>: 250を200と50に分けて、200は10が20こであることに気づいている。既習の学習を生かして考えている。</p> <p>: 図を用いて、200と50、さらに200は100が2こ、100は10が10こと段階的に、10に置きかえさせる。</p>
7	<p>・100を10個集めた数を1000と書いて、千と読むことを知る。また、1000を数直線と対応づけ、1000についての理解を深める。</p>	<p>(問) ぼうは全部で何本あるでしょう。</p> <p>大きな数の表し方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100が10こあつまたぞ。</li> <li>・またくらいがふえるぞ。</li> </ul> <p>大きな数を表すには100が10個集まった1000を使えばよい。 (練) 数直線を見ながら答えよう。</p>	<p>【知】百を10個あつめた数を「千」といい、1000とかくことを理解している。</p>	<p>: 10が10こで100ということから、100が10こで1000ということ想起している。</p> <p>: 数直線を使って、100が10こで千となることを100ずつ増える数直線で表すことができるようにする。</p>
8	<p>・数直線を用いて、1000までの数の順序、系列、大小など</p>	<p>(問) 3けたの数を数直線に表そう。</p> <p>数直線の表し方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1めもりを100にすると</li> </ul>	<p>【知】1000までの数の数直線上への表し方や大小の比べ方がわかる。</p>	<p>: 一番大きな位から比較し、数が違う位で大小を比較すればよいことに気づいている。</p>

	を考え、数について の理解を深める。	かんたんそうだ。 数直線を表すには、1目盛り分 の大きさに目をつけていけばよ い。		: 小さな位に大きな 位があっても惑わされ ないように、数字を上 下書きどの位で大小 を決めるかをはっきり させる。
9	・いろいろな活 動を通して、 1000に対す る量感を深め る。	(問) 次の活動に挑戦しよう。 1000歩歩いてみよう。 電話帳を1ページから100 ページまでめくってみよう。 1~1000までの数をノー に書いてみよう。 一元玉募金を数えよう。	【関】既習事項を 活用し、活動に取 り組もうとしてい る。	: 自分のやりたい活 動をすぐに決め、いく つかの活動に取り組む ことができる。 : それぞれの活動の 最初の15ぐらいまで をやってみて、どの活 動ができそうかを考え させる。
10	れんしゅう			

6. 本時のねらい・・・10のまとまりや100のまとまりを作る活動を通して、100をこえる数を数えることができる。

7. 本時の展開

	ねらい	学 習 活 動	指導・援助・評価
つかむ	<p>・本時の学習について見通しをもつ。</p>	<p>1. 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>さかなはなんびきいるでしょう。</p> </div> <p>・いっぱいいるなあ。                      ・一つずつ数えたら大変だなあ。                      ・10ずつ数えれば分かりやすいよ。                      ・数えた魚に、しるしをつけていけばいい。</p>	<p>・魚の絵を提示し、教師が一つずつ数えていく。その際に、印をつけた方がいいことや、まとまりを作った方がいいことを想起させ、つぶやき程度に出させ、課題化していく。</p>
考える	<p>・10のまとまり、さらに100のまとまりを作るとよいことに気づく。</p>	<p>2. 個人追究をする。                      ア、一つずつ数える                      イ、10のまとまりをつくって数える。                      ウ、10のまとまりを10個あつめさらに、100のまとまりをつくって数える。</p>	<p>・数が大きいので、間違えやすいことから、1びきずつ数えている子には、もっと確実ではっきりと数がわかる方法を考えるように声をかける。</p> <p>・10が10こで100ということに気づいた子に、さらにぱっと見てわかるようにするには、どうすればよいかを考えさせる。</p>
深める		<p>3. 考えたことを交流する。                      ・10が12こと1が6こになった。                      ・10が10こで100だから、100にまとめたほうがいい。                      ・1が10こで10にまとめたのと同じように、10が10こでまとめて100にした方がわかりやすい。</p>	<p>・10が12こより100が1こ、10が2この方がわかりやすいことから、100のまとまりをつくることが大切であることをおさえる。</p>
まとめる	<p>・10のまとまりや100のまとまりを作って数えることができる。</p>	<p>4. 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大きな数は、100のまとまり、10のまとまり、1のばらとわけてかぞえるとよい。</p> </div> <p>5. 練習問題に取り組む。                      ・グループで与えられた数え棒の本数を数える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> </div>	<p>・百の位という言葉や十進位取り記数法における3位数の表し方については次時に扱う。</p> <p>・数えた棒を100のまとまり、10のまとまり、1のばらと分けさせる。</p>